

「開拓之礎」

新潟県阿賀野市・畑江開拓

新潟県では 65 地区で戦後開拓事業が実施された。下越地方に位置し、新潟市に接する阿賀野市は 04 年に旧・北蒲原郡安田町、水原町、京ヶ瀬村、笹神村の 4 町村が合併して発足。旧・笹神村の畑江地区には、旧・満州（現・中国東北部）からの引揚者等が入植した。

満蒙開拓移民事業により、旧・南蒲原郡の町村で構成する「刈谷田郷開拓団」は 45（昭和 20）年夏に渡満したが、荷物の到着も待たずに終戦を迎えた。悲運の開拓団は死線を越えて引き揚げたものの、住む場所もなく、同郡見附町で待機した。

46 年 9 月、同開拓団のうち 21 戸が畑江地区に入植。用地は国有林で、扇状の緩傾斜地だった。地元縁故者も加わって、開拓事業が始まった。地元縁故者以外は、共同小屋から出発し、生活も作業も共同で進められた。

開畑を計画したが、^{せきれき}石礫が多く、開墾・耕作ともに困難で、可耕地が少なかった。また、春から夏にかけて季節風が強く、作物の地上部が傷めつけられた。不慣れな帰農者が大半を占めていたこともあり、営農は伸び悩みの期間が長く続いた。畑作の基幹形態を決め難いままに、営農は養蚕、畜産などの方向に分かれた。

同市畑江の畑江公民館の敷地内に開拓記念碑があり、地区内で管理されている。畑江開拓農協（76 年解散）の顕彰を記念して、97 年に建立されたもの。周辺は中山間地で、畑作、畜産を中心に営農が行われている。

記念碑の碑銘は「畑江開拓農業協同組合顕彰記念之碑 開拓之礎」。裏面には碑文と組合員氏名が刻まれている。碑文には、「当時、戦後の食糧難と合わせてほとんどが手作業による山林開墾という重労働は想像を超えたものであった。それこそ毎日が貧困と重労働による二重の生活苦との戦いであった」「以来、苦節五十余年が経過し、ようやく人並みの生活基盤を持つことができるようになった」と記してある。

畑江開拓農業協同組合 開拓之礎

- ①所 在 新潟県阿賀野市畑江
- ②設置年月日 平成9年11月
- ③設置者 畑江開拓農業協同組合 組合員
- ④碑 名 畑江開拓農業協同組合顕彰記念碑
- ⑤碑文（表面） 畑江開拓農業協同組合顕彰記念之碑
開拓之礎 組合長 渡邊隆司 著

- ⑥碑文（裏面） 昭和二十一年（一九四六）九月一日、満州開拓引揚者を主体に二十一戸がここ笹神村（笹岡村）畑江（勝屋）の地に入植し、開拓事業がはじまる。当時、戦後の食糧難と合わせてほとんどが手作業による山林開墾という重労働は想像を超えたものであった。それこそ毎日が貧困と重労働による二重の生活苦との戦いであった。

そのため昭和二十六年頃になると、貧困と重労働 それに将来の希望が持てないということから離村者が出はじめるようになったが、新しい入植者もあつたりして戸数減ということにはならなかった。

以来苦節五十余年が経過しようやく人並みの生活基盤を持つことができるようになった。

昭和五十一年三月三十日付けで、新潟県通達の解散命令により畑江開拓農業協同組合は解散となる。

平成九年十一月、これまでの畑江開拓農業協同組合の顕彰を記念してここに記念碑を建立する。

下段に組合員 47 名氏名

- ⑦現在の状況 畑江公民館敷地内に立地し、管理されている。



